

キタ！からきた

だより

第148号



※支部活動に関するご質問・ご要望や、事例検討会、一泊研修他、申し込みについては、以下のメールアドレスにご連絡下さい。

kitasibu2012@yahoo.co.jp 大阪北支部宛



「こんなところに社会福祉士がいた！」



＜大阪北支部・会員リレー紹介 036＞

レポーター（中山智津子）

今回ご紹介するのは脳神経外科病院でMSWとして働かれている立石奈穂さんです。優しく安心できる雰囲気、とても素敵な夢をお持ちの方です。以前の仕事の関係で立ち寄った本屋でたまたま見つけた通信制大学のパンフレットを見て、勢いで入学！「社会福祉士っていう資格がとれるんや」と知って社会福祉士を目指されたとのこと。また、在学中にお子様を出産されたこともあり、児童福祉にも興味を持たれて、保育士免許を取得して病児保育施設で働かれた経験もお持ちです。



「せっかく社会福祉士資格を取得したのでMSWとして働きたい」と考えられて、現在の職場に入職。急性期の脳神経外科病院で、患者さんの入院支援や抱えている問題の解決、リハビリ病院やその他病院への転院支援、ケアマネジャーや包括支援センターと連携を図りながら介護サービス調整など、幅広い業務に携わっておられます。

多忙な中でも大切にされているのが、「患者さん本人やご家族の気持ちをうかがいながら方向性を探していくスタンスでいること」だそうです。

そんな立石さんの今後の夢は、今まで経験したことを活かして、「住んでいるマンションで共助システムを作りたい」とのこと。単身世帯の高齢者のちょっとした日常の困りごとを、現役世代が少額で支援する仕組みを作りたいのだそう。「いつか私が単身高齢者になった時に、晩御飯を持ち寄って集会所で集まれるような関係性になれたらいいなと考えています」と話してくださいました。身近な方同士が助け合い、安心できる場所があるのは素敵ですね。そんなマンションがあれば私も住みたいと思いました。

現在も夢の実現に向けて、コロナ禍でも関係性が保てるように、SNSをつかって住民間で日常の情報交換をされているそうです。周りを惹きつける人柄と行動力を持っておられる立石さん、素敵な夢に向かって前進中です！

研修報告『気づきの事例検討会（第2回／全4回）』



気づきの事例検討会第2回目の報告をさせていただきます。当日は講師も事例検討会に参加いただき、質問力の学びができました。

気づきの事例検討会は、解決策を見つけるための検討会ではなく、対人援助者がクライアントに最善の援助ができるようになるための、相談援助者の成長の為に検討会です。提出事例を参加者メンバーで再アセスメントを実施しました。講師より検討メンバーはサポーターな関係のなかで参加や事例提出者の気づきを促し一緒に成長できるように学べる場となりました。

講師からの質問は具体的に、話した言葉の意味を振り返りながら、丁寧な質問をされました。質問力の向上を目指すための良い機会となりました。講師より、リラックス出来る為に、飴も頂きながらの検討会でした。事例提出者が検討メンバーにサポーターな状況で自分の事例を振り返る事ができ、事例提出者には大きなお土産を持って帰って頂けたとおもいます。



★令和4年2月より、大阪北支部の公式LINEアカウントの運用が開始されています。本会や支部の情報をいち早く受け取ることができます。

LINEの「友だち追加」から、ID検索「@712abvel」するかQRコードをスキャンしてください。

